

2023年11月15日  
株式会社SVPジャパン

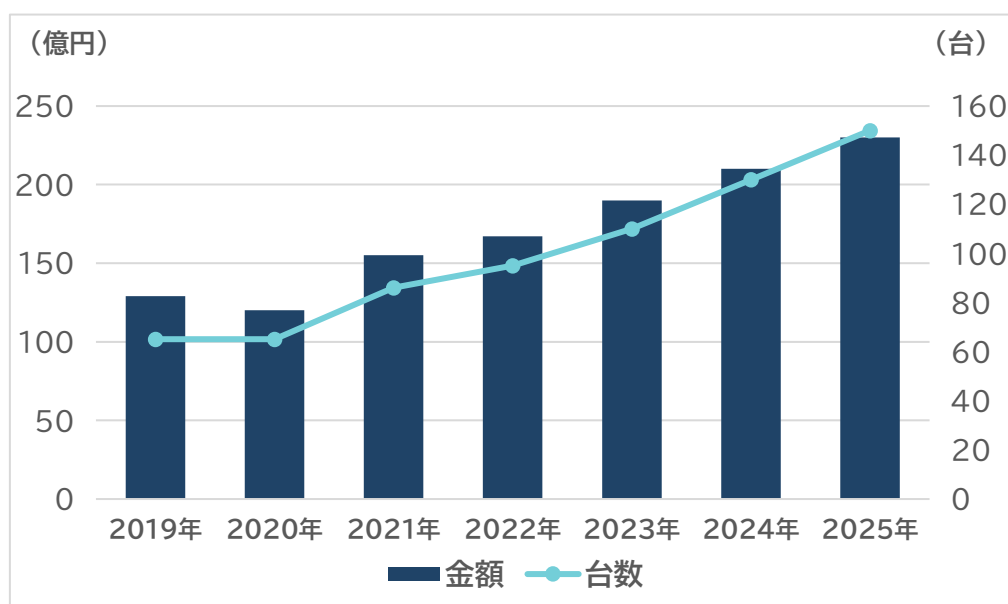
## SVP注目市場分析 「ロボット（手術支援ロボット）」を公開

～医師の手術手技を補助する、手術支援ロボットの導入が進む～



会員制マーケットリサーチサービスを提供している、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポートの「ロボット（手術支援ロボット）-国内市場の現状と将来展望-」について会員企業向けに公開いたしました。

### ■ロボット（手術支援ロボット）の国内市場



国内の手術支援ロボットの市場規模は、2022年の実績として出荷台数が100台弱、金額ベースで167億円であったと推定される。2020年は、コロナ禍の影響で医療機関の設備の導入や更新が大幅に減少したことから、手術支援ロボットの市場も停滞した。しかし、2021年は前年比30%増の拡大となり、22年も好調な推移が続いた。2021年は、前年の導入が先送りされた反動もあったが、2020年に国産の手術支援ロボットが発売されたことをはじめ、整形外科領域で新製品が相次いで導入されたことが市場の拡大に寄与した。

高齢化が進む中で、手術支援ロボットを使用した侵襲性の低い内視鏡下手術の必要性はさらに高まる。

## ■ロボット（手術支援ロボット）の市場概況

手術支援ロボットの中でも、特に内視鏡下手術を支援するロボットの導入が進んでいる。ロボットを使用した内視鏡下手術は、従来の手術に比べ、より精緻な操作が可能で、術中の出血量が少なく、術後の回復も早いなど患者へのメリットが大きい。こうしたメリットから、近年、その手術数が増加しており、ロボットの新規または追加導入が増加傾向で推移している。内視鏡下手術を支援するロボットは、米・Intuitive Surgicalが開発した

「da Vinci（ダヴィンチ）」に代表される。ダヴィンチは、米国では2000年に食品医薬品局（FDA）の承認を受けたが、日本では承認が遅れ、2009年に薬事承認され臨床使用が可能となった。その後、2012年に、ダヴィンチを使用した前立腺がんの手術が保険適用となったことで、その導入が急速に進んできた。



## ■本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造

## ■本レポートの購読について

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。  
ご希望の場合は、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購入いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

お問い合わせは、[こちらをクリック](#)



資料請求

お問い合わせ

SVP会員の方は、[こちらをクリック](#)



会員サイト

## ■次回のテーマ

12月のテーマは、「ロボット（介護ロボット）」と「治療用アプリ」を予定しています。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール・・・毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

[会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン  
代表取締役 : 橋本 雅  
所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F  
設立年月日 : 1974年7月1日  
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス  
URL : <https://www.svpjapan.com/>

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン デジタルマーケティング部  
[info@svpjapan.com](mailto:info@svpjapan.com)